

グローバル化が進み日々変容する知識基盤社会においては、高度な教養を備えた柔軟で適応力に富む人材が求められると言われます。近年、英国をはじめ海外有数の大学が高度なアーツとサイエンス教育に注力しているのはそのためです。

今、企業や社会は大学に対してどのような教育を期待しているのでしょうか。海外の大学は教育の国際化と高度化を推し進める上で、どのような目標をかかげ、どのような具体的実践を講じているのでしょうか。

日本の財界と芸術界のトップを迎え、またアーツとサイエンス教育で先端を行く海外有力大学の取組代表者を講師として、グローバル化時代に求められる人材像を明らかにし、社会の信頼に応える大学教育のあり方を探ります。



Sandro Botticelli 自由七学芸へと導かれる若者

グローバル人材における アーツとサイエンス

— 国際流動化時代の大学教育 —

国立大学法人一橋大学
一般社団法人国立大学協会 主催
共催 国際シンポジウム

参加費
無料

日時 2014年11月20日(木) 14:00 ~
[受付 13:30 ~]

場所 一橋大学 一橋講堂 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

司会 松塚ゆかり (一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター教授)

【挨拶】 山内 進 (一橋大学長)

【第1講演】 14:10-14:40 北山 禎介 (三井住友銀行会長)

【第2講演】 14:40-15:10 青木 保 (国立新美術館館長)

【第3講演】 15:20-15:50 Frances Cairncross
Rector, Exeter College,
Oxford University

【第4講演】 15:50-16:20 Carl Gombrich
Director, Arts and Sciences Programme,
University College London

【パネル討論】 16:30-17:40

司会 足羽 與志子 (一橋大学社会学研究科教授)

パネリスト 北山 禎介、青木 保、Frances Cairncross、
Carl Gombrich、井上 間従文 (一橋大学言語社会研究科准教授)、
György Nováky (一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター・
Uppsala University 教授)

*日英同時通訳がつかます



【一橋大学一橋講堂】

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線

神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4 分

※ A8 出口は、近隣ビルの工事のため平成 25 年 10 月 5 日から

閉鎖しております。お越しの際には A9 出口をご利用ください。

東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4 分

参加申込

下記 URL よりお申込ください。

<http://www.arinori.hit-u.ac.jp/>

定員 (400 名) になりしだい締め切らせていただきます。

お問合せ

一橋大学 森有礼高等教育国際流動化センター

担当窓口: 池田 電話: 042-580-9234

E-mail: arinori@dm.hit-u.ac.jp



国立大学法人

一橋大学

HITOTSUBASHI UNIVERSITY